

鶴 議 第 1 9 1 号

平成30年12月18日

鶴ヶ島市長 齊 藤 芳 久 様

鶴ヶ島市議会議長 金 泉 婦 貴 子

### 市民の意見を踏まえた政策提言について

市民の負託にこたえ得る議会であるためには、多くの市民と意見の交換をし、議員同士の議論を活発に行い、論点や課題を明らかにして、多様な市民の意見を集約していく必要があります。

このため、最近の議会報告会では、市民との懇談を重視し、市民の声・要望を聴くとともに、市民との意見の交換を深めてきました。

今回、こうした市民との意見の交換から明らかになった課題を議会内で協議し、特に重要と思われる事項について、第6次鶴ヶ島市総合計画や各種施策への反映を図るため、鶴ヶ島市議会基本条例第2条第2号の規定に基づき、下記のとおり提言を行いますので、その対応を求めます。

### 記

#### 1 子育て支援施策のPRとシティプロモーションについて

##### <現状>

子育て世代の若い母親は、インターネットなどで子育て情報を得ているため、情報発信にインターネットを活用する必要があること、子育てしやすい本市の魅力が十分にアピールされていないなどの意見がある。

##### <課題>

本市は、5年間待機児童ゼロ、多くの子育てセンターやつどいの広場の開設、充実した学童保育室など、他市に誇れる子育て支援施策があるにもかかわらず、市の内外に十分な周知がされていない。

## <提言>

市内及び市外の子育て世代層へ向けて、インターネットやSNSを活用した子育て支援施策の周知を図るべきである。また、この施策を中心に、戦略的なシティプロモーションに取り組み、転入者の増加と転出者の抑制を図るべきである。

## 2 子どもの安心・安全の確保について

### <現状>

不審者の出没や子どもへの声かけの発生に関し、地域での見守りや防災行政無線の活用、PTAへの不審者情報の提供、犯罪データによるハザードマップの作成要望などの意見がある。また、児童の登校時のスクールゾーンの安全確保や歩道整備の要望がある。

### <課題>

昨今、全国的に子どもが犯罪に巻き込まれるケースが発生している。本市においても、児童・生徒へのつきまとい、声かけなどの不審者情報も多く報告されおり、子どもたちを犯罪から守る取組が必要である。

また、無謀運転などにより、児童が登校時に事故に巻き込まれる事件も各地で発生しており、児童の登下校時の交通安全の確保は、本市においても重要な課題である。

## <提言>

子どもたちの安全を確保し、子育て世代が安心して暮らせるよう、地域と連携した子どもの見守り活動、不審者情報の提供、防犯機器の活用、通学路の安全確保等について、更に重点的に取り組むべきである。

## 3 学校の統廃合について

### <現状>

学校運営や部活動が困難となることから、学校の統廃合の必要性の認識は市民にも十分にあるが、統廃合の取組状況の情報提供が不十分であることへの不満の意見がある。

### <課題>

平成26年度に策定した公共施設等利用計画において明記された小学校6校、中学校3校という学校数だけの情報が先行し、また、時間も経過していることから、うわさ話により統廃合が憶測されている。更に中学校では、クラス替えや部活動に支障が出ている。

### <提言>

早急に学校施設再編計画を策定し、市民への周知や合意形成を図り、学区拡大への配慮を行った上、計画を実行に移すべきである。

## 4 いじめ・不登校対策について

### <現状>

いじめ・不登校の人数が多いこと、女子同士の陰でのいじめが存在すること、スクールカウンセラーなどの不足、昨年発生したいじめ事件のしっかりとした解決を望むこと等の意見がある。

本市議会としても、平成27年3月23日に「子どもたちの心豊かで健やかな成長を願う決議」をし、本年4月26日には市長に対し、「いじめを根絶し、子どもたちの命を守る取組に関する申し入れ書」を提出している。

### <課題>

本市においては、ここ数年で2度の大きないじめ問題が発生し、そのうち、平成29年11月には尊い命が失われている。不登校児童・生徒数の増加もあり、教育分野における重要課題である。

### <提言>

いじめを絶対に許さないという強い信念の下、学校、教育委員会、市のみならず、保護者をはじめとした関係者が連携し、地域社会が一体となり、あらゆる手段を講じていじめを撲滅すべきである。

## 5 地域コミュニティの強化について

### <現状>

自治会においては、高齢化の進行に伴う退会者の増加、役員を持ち回りによる弊

害、人材育成の必要性などの意見がある。更に、自らが地域のことを考える本来の自治会の姿に見直すべきであるとの意見もある。

#### <課題>

少子高齢化、人口減少、住民の意識の変化等により、地域コミュニティの根幹である自治会の存続が危ぶまれ、現在の市の支援では、小さな自治会が崩壊してしまう可能性がある。

#### <提言>

自治会の経理等の外部委託化などの自治会への支援策、自治会と地域支え合い協議会の役割分担など、自治会に対する支援のあり方を見直し、地域コミュニティの強化を図るべきである。

## 6 高齢者が活動しやすい環境整備について

#### <現状>

公園などのトイレの整備による高齢者が運動しやすい環境整備、高齢者が外出しやすい環境としてのバリアフリー化の推進、空き家を活用した高齢者の居場所づくり、つるバス・つるワゴンの増便等の要望がある。

また、市のホームページは高齢者には分かりづらいなどの意見がある。

#### <課題>

高齢になっても、疾病に罹らず、いかに健康で生活できるかが重要であり、高齢者が家に閉じこもることなく、外出して活動できる環境整備が必要である。

#### <提言>

市民の健康寿命を延ばし、高齢化に伴う財政負担を軽減するため、公園のトイレの整備、道路をはじめとした公共施設のバリアフリー化を進めるとともに、つるバス・つるワゴンなどの公共交通の充実、高齢者の交流施設の確保などにより、高齢者の外出を支援すべきである。